

II. 患者コホート研究

1. Japan Diabetes Complication and its Prevention prospective (JDCP) study

東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科
主任教授
西村 理明

[Summary]

Japan Diabetes Complication and its Prevention prospective (JDCP) studyは、日本糖尿病学会のデータベース構築委員会が主導する、前向きのコホート研究である。

JDCP studyの目的は、わが国の糖尿病患者の管理・治療状況を調査し、糖尿病合併症の発症・進展のリスク因子を明らかにすることにより、糖尿病診療ガイドラインへ提言することである。

現在ベースラインデータがまとまりつつあり、JDCP studyに本登録された6,338名のうち2型糖尿病は5,944名(93.8%)で、HbA1c 7%未満を達成していたのは男性47.3%、女性41.1%であった。1型糖尿病394名(6.2%)において、HbA1c < 7%を達成していたのは23.1/26.9%にすぎなかった。非増殖網膜症(単純網膜症および増殖前網膜症)については、2型糖尿病患者の27.6%に、1型糖尿病患者の22.8%に認めた。腎症、神経障害、歯周病に関しては、近日中に報告予定である。

Key Words :

JDCP study □ HbA1c □ 疫学研究 □ 糖尿病

はじめに

糖尿病患者数の増加は、全世界で大きな問題となっている。その理由は、糖尿病の合併症によるQOLの低下ならびに医療経済的な著しい負担増である。したがって、早急かつ効果的な対策が確立されることが望まれるが、いまだ十分な成果があがっていない。

しかしながら、合併症の実態は十分に把握されているとはいえず、わが国において、21世紀に入ってから開始された糖尿病合併症の実態やそのリスク因子に関する全国規模の前向き観察研究はきわめて少ない。

そこで2004年10月、日本糖尿病学会は糖尿病データベース構築委員会を常置委員会として設置し、Japan Diabetes Complication and its Prevention prospective (JDCP) studyを、5年間に亘る前向き観察研究事業として開始した¹⁾。また、本研究においては、合併症の発症・進展リスクとその判定のために各分野の専門家の協力が欠かせないため、日本腎臓学会、日本糖尿病眼学会、日本歯周病学会の3学会に働きかけ、共同研究を行う体制とした点も本研究の特筆すべき特徴である。

JDCP studyは、2009年から2年間は厚生労働省指定研究として位置付けられ¹⁾、2011年以降は、日本糖尿病学会糖尿病データベース構築委員会の中核的学術研究事業研究として遂行されている。